

はまかせ

第 100 号

2025 Oct.

特集 「はまかせ」100号の発刊を迎えるにあたって

CONTENTS

P01 特集「はまかせ」100号の発刊を迎えるにあたって 病院長挨拶

P03 広報誌「はまかせ」100号の歩み

P05 未来へのメッセージ・ビジョン

P07 スタッフ紹介

P09 地域との取り組み紹介

P10 編集後記



地域医療支援病院
災害拠点病院
地域がん診療連携拠点病院
臨床研修指定病院
病院機能評価認定病院

国家公務員共済組合連合会 **浜の町病院**

〒810-8539 福岡市中央区長浜3丁目3-1

TEL 092-721-0831 FAX 092-714-3262

<https://hamanomachi.kkr.or.jp>

交通アクセスはこちら



特集

浜の町病院広報誌

第100号記念 病院長挨拶

「はまかぜ」
100号の発刊を迎えるにあたって

病院長

谷口 修一



浜の町病院の広報誌「はまかぜ」が第100号を迎えるにあたり、
日頃より当院を信頼し利用していただいている患者さん、ご家族の皆さま、
地域の先生方、そして共に歩んでいる職員一同に、心より感謝を申し上げます。

当院は開院以来、「病める人の身になって、心のこもった最良の医療を目指す」ことを「浜の町病院の理念」として掲げてきましたが、医療を取り巻く環境は、この20年余りで大きく様変わりしました。少子高齢化の進展、医療技術の高度化と専門分化、感染症や災害への対応、さらには医療界における経済的・社会的課題



など、多岐にわたる変化の中で、私たちは常に地に足をつけて「地域に根ざし、地域に貢献する病院」であり続けることを意識して、努力してまいりました。広報誌「はまかぜ」は、そうした歩みを記録

し、地域の方々や関係機関の皆さまと共有する大切な媒体です。創刊当初から、病院の日常や診療の最前線、職員の取り組み、さらには健康情報の発信を通じて「病院を身近に感じていただきたい」という思いが込められてきました。100号という節目は、まさにその思いを受け止め、読み継いでくださった皆さまのおかげにほかなりません。

ここ数年を振り返れば、新型コロナウイルス感染症の流行は、医療機関にとってかつてない試練でした。当院も例外ではなく、治療と感染拡大防止の両立に全力を尽くす一方で、地域の医療機能を決して止めることのないよう職員が一丸となって取り組みました。この経験は、困難を乗り越える職員の団結力と地域の方々からの温かい励ましがいかに大きな力になるかを、改めて私たちに教えてくれました。

次代に向けて、患者さんが住み慣れた地域で 安心して暮らし続けられる体制の構築へ

これからの医療は、ますます大きな変革の波の中にあります。少子高齢社会の進展により、医療は「治す」だけでなく「支える」「つなぐ」ことが求められるようになり、私たちは急性期医療を担うと同時に、予防・在宅・介護といった地域の医療資源と連携し、患者さんおひとりおひとりの人生に寄り添った切れ目のない医療を提供していきます。そのためにも、当院は「地域医療のハブ」としての役割を強化し、開業医の先生方や地域の介護・福祉関係者との連携をさらに深め、患者さんが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる体制を築いていく必要があります。

また、AI(人工知能)やICT(情報通信技術)をはじめとする新しい技術の導入も不可欠です。診療や検査の効率化だけでなく、データを活用した予防医療や遠隔診療の発展により、これまで以上に患者さんの利便性を重視した医療が可能になると期待されます。こうした時代の変化を積極的に取り入れる柔軟性と挑戦心を

持つことが、浜の町病院の未来を切り拓く力となると考えます。

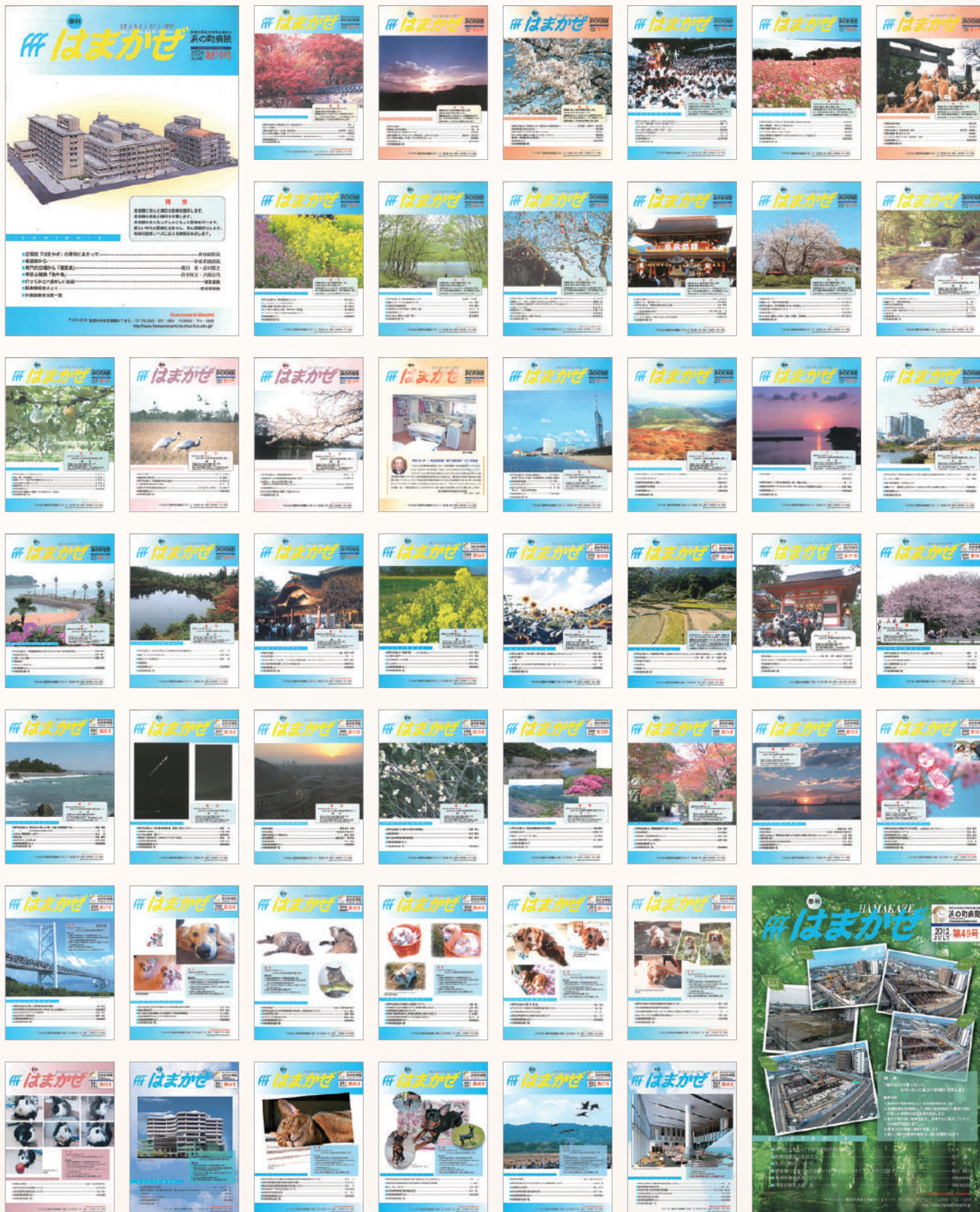
私たち浜の町病院は、これからも「誠実な診療をモットーに、地域に信頼され、未来に必要とされる病院」であり続けることを目標に歩みを進めてまいります。どうぞ今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。





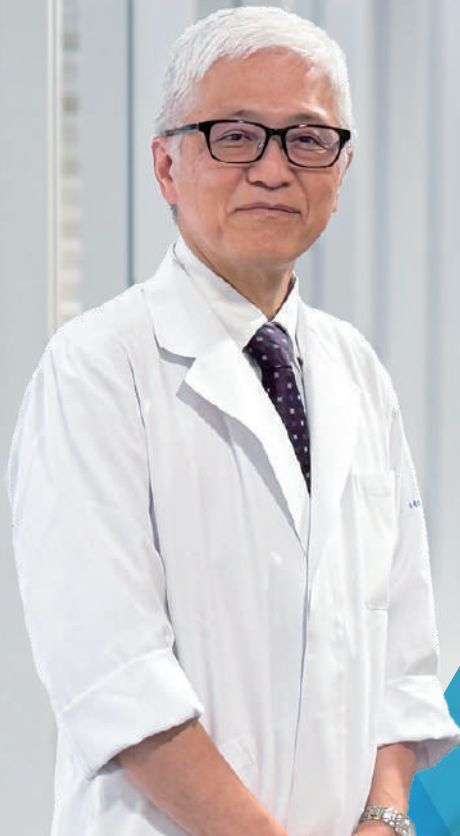
広報誌
「はまかぜ」

100号の歩み



平成から令和へ。広報誌『はまかぜ』の表紙デザインは、
その時々時代のムードと、当院が掲げる希望を表現してきました。
ここから、病院のあゆみをたどります。





副院長

吉澤 誠司

誰もが安心して暮らせる社会へ

地域体制を実現することで

医療・介護・福祉が一体となった

医療の質向上と地域連携強化について

日本は急速な高齢化に直面しており、持続可能な医療体制の構築が喫緊の課題となっています。その中で「医療の質の向上」と「地域医療連携の強化」は、今後の医療提供に欠かせない柱です。

質の高い医療を維持するには、人材の育成と確保が不可欠です。医師・看護師をはじめとする医療職が安心して働ける環境を整え、教育機会を集約してスキルを高めることが求められます。またICTやAIを活用し、診療の標準化と効率化を図ることで、限られた資源の中でも安定した医療提供が可能となります。さらに医師・看護師など多職種が連携するチーム医療を推進し、タスクシェアやタスクシフトを進めることも欠かせません。

特に高齢患者においては、単なる治癒だけでなく生活の質(QOL)の維持や早期の社会復帰を見据えた支援が大切です。当院は地域医療支援病院として、急性期から回復期・慢性期、さらには在宅医療へと切れ目なくつなぐ体制づくりを進めています。

地域医療連携課では、紹介・逆紹介データの分析や調整会議での情報共有を通じて、連携の質を高める取り組みを実施しています。今後は在宅医療や介護との協力をさらに深め、退院後も安心して療養が継続できる環境整備に努めます。加えてICTやAIを活用した情報共有基盤を整え、かかりつけ医との画像・検査情報の共有や診療情報提供書の電子化・標準化を推進してまいります。

こうした取り組みにより、医療・介護・福祉が一体となった地域体制を実現し、地域の方々が安心して医療を受けられる環境につながると考えています。今後も地域に開かれた病院として、医療の質向上と地域連携強化に努め、安心して暮らせる社会づくりに貢献してまいります。



進化を続けていきます

患者さん中心の医療を追求し

最新かつ安心感・満足感の高い

副院長

植木 隆



医療における「最良の選択とは」何でしょうか

私は外科医ですが、手術を含め方針の決定が難しい場合に、「先生の家族だったら、どうしますか。」との質問を受けることがあります。医療においては、目指すべき十分な治療効果とともに、患者さんの心配やご家族の希望を聞き出しながら治療のメリットやデメリットをわかりやすく説明し、同じ立場に立って一緒に方針を決定することで、安心して治療を受けていただくことも重要です。この「はまかぜ」創刊後25年の間に、特定の物質を標的とする分子標的薬が開発され、遺伝子レベルの異常に基づいたゲノム医療が始まり、免疫チェックポイント阻害剤などの免疫治療が進歩し、iPS細胞等による再生医療も臨床応用へと進みました。私の領域でも、内視鏡手術やロボット手術が急速に普及し、患者さんにとって負担が少なく質の高い外科治療が行えるようになりました。最新の医療提供はもちろん安心感と満足感の高い医療を求めて、今までもそして次の25年も患者さん中心の医療を追求し進化を続けていきます。

医療の今を伝えるため、この広報誌「はまかぜ」をはじめとする各種パンフレット、公式ホームページやYouTube、InstagramなどのSNSを通じて当院の情報を発信しています。新規の検査や新たな治療法の紹介をはじめ、こんな症状のときにはどの診療科を受診すれば良いか、どのような治療を行っているのか、医師の得意分野は何なのか、治療の実績はどれくらいあるのか、など皆さんの疑問や不安にお答えしています。また病院内外の様々なイベントやインタビューを紹介し、医師と医療従事者の人柄や病院の日常をお伝えし、安心して受診していただけるように心がけています。地域の皆様とのつながりを大切に、選ばれる病院を目指して絶えず発信を行っていきます。





浜の町病院の次世代を担う

看護部

8年目



治療中も安心して過ごせるよう
細やかに支援します

私は血液浄化センターに所属し、血液透析と外来腹膜透析を担当しています。腹膜透析の患者さんには入院中から医師・病棟スタッフと協力し、在宅での生活を見据えた指導を行い、外来への継続看護に繋げています。指導内容で迷うこともあります「アドバイスでうまくいったよ、ありがとう」との言葉を励みに、患者さんが治療をしながら安心して生活が送れることを目標に頑張っています。

研鑽を続けて薬学の知識を磨き
質の高い提案をみなさまへ



薬剤部

10年目

がん治療薬剤師外来と入退院センターの業務を主に担当し、がん薬物療法を受ける患者さんへの服薬指導や診察前の面談、手術前後の薬剤管理を行っています。限られた時間でも患者さんの安心や理解につながる面談となるよう心がけています。外来がん治療専門薬剤師の資格を活かし、より質の高い薬学的な提案ができるよう最新の知識を取り入れながら研鑽を積んでいきたいです。

より質の高いリハビリの提供へ
若手育成にも力を注ぎます



リハビリ
テーション部

5年目

理学療法士として当院へ入職して5年目、臨床経験13年目となります。主に整形外科病棟を担当し、術後の早期回復、在宅復帰に向け支援しています。日々の臨床のほか、部内勉強会、臨床研究を通して、若手スタッフへ知識・技術を共有し、部全体としてより質の高いリハビリを提供できるように努めています。

食べられる食事を一緒に考え
提案できる管理栄養士を目指して



栄養
管理部

6年目

血液内科病棟の栄養管理を担当しています。入院期間が長く、治療の影響で食欲が低下している患者さんが多いため、食べられる食事を一緒に考え、提案できる管理栄養士でありたいと思っています。患者さんから「あなたの提案なら試してみたい」と言ってもらい、少しずつ食事がとれるようになり、退院される姿を見届けた時には大きなやりがいを感じます。

スタッフたちをご紹介します。



中央
放射線部
7年目

技術の進化に適応しながら
より良い医療をお届けします



臨床
工学部
11年目

仲間と協力しながら研鑽を続け
地域医療を支えていきたいです

安全な検査を行い適切な画像を提供することでより良い医療を患者さんに届けられるよう、日々研鑽を重ねています。入職して7年目となりましたが、様々なモダリティを経験する中で新たな知識が増え、対応できる幅が広がるのを実感した時に特にやりがいを感じています。日々進化する技術に置いて行かれないよう、これからも学びを怠らず業務に従事していきたいです。

臨床工学技士として、知識と技術を活かして医療機器を管理し、安全で確実な医療の提供を支えています。末梢血幹細胞採取の治療の際に、患者さんから「緊張していたけど、リラックスして治療を受けることができました。ありがとう」と言ってくれた時は、大きな励みになりました。これからも研鑽を続け、仲間と協力しながら地域医療の発展に貢献していきたいと思っています。



臨床
検査部
8年目

今後もさらに専門力を深めて
診断や治療に貢献したいです

生化学・血液検査と体外受精業務に携わっています。検査では迅速かつ正確な結果を報告すること、体外受精では採取した一つ一つの卵が命であることを常に意識しています。異常な検査値を発見した場合は速やかに医師に報告し、早い段階で適切な治療が行われた時には検査技師としてのやりがいを感じます。今後もさらに知識を身につけ、診断や治療に貢献できるよう励んでいきます。



事務部
5年目

迅速・正確なやりとりを心掛け
みなさまを円滑にご案内します

地域医療連携課は主に紹介患者さんの受け入れを行う前方連携と、退院支援などを行う後方連携に分かれており、私は前方連携の事務員として、他の病院から患者さんが安心して、適切な治療を効率的に受けられるように電話やFAX対応などの業務をしています。他にも連携課では地域の先生方との連携強化に向けて、訪問活動や研修会も行っています。日々、スムーズに患者さんの受け入れをできるように迅速かつ正確なやりとりを心掛けています。

地域とともに、
これまでも、
これからも。



地域医療連携の役割

浜の町病院では、地域医療における当院の「役割」を常に意識しながら、地域の診療所やクリニック、介護施設や福祉施設などと連携して患者さんが住み慣れた地域で適切な医療サービスを受けられるように取り組んでいます。

- 浜の町病院と診療所(クリニック)、あるいは病院同士で連携し、紹介や逆紹介を円滑に行います。
- 患者さんが安心して療養を続けられるように、退院後の生活や転院先について、地域の医療機関、介護施設、福祉施設と連携してサポートします。

これからも、患者さん、地域から選ばれる病院を目指します。

地域とのつながり

2014年より、地域医療への貢献の一環として「市民公開講座」を開催しており、多くの方にご参加頂いております。「市民公開講座」は、病気の予防や治療に関する正しい知識を、地域の皆様に直接お届けすることを目的としており、医師・看護師・管理栄養士・理学療法士など、多職種のスタッフが講師を務めることで、幅広い視点から健康テーマを取り上げています。今後も皆さまとの有意義な交流の場となるように準備を進めています。

■ 市民公開講座 (初回年度と直近3年の実績)

開催月	開催回	講師	
平成26年度(2014年度)			
7月	第 1 回	救急センター	廣津 こう平
		循環器内科	臼井 真
10月	第 2 回	救急センター	廣津 こう平
		感染管理部	内田 勇二郎
1月	第 3 回	健康医学センター	高崎 智子
		形成外科	松本 大輔
3月	第 4 回	副院長	松浦 隆志
		放射線科	舛本 博史
...	...	...	
令和5年度(2023年度)			
7月	第39回	整形外科	萩尾 聡
11月	第40回	消化器内科	尾石 義謙
令和6年度(2024年度)			
6月	第41回	プロ野球解説者	攝津 正
10月	第42回	健康医学センター	高橋 和弘
2月	第43回	リハビリテーション部	荒木 貴弓/北川 大智
令和7年度(2025年度)			
10月	第44回	精神科	米倉 由貴

■ 舞鶴大学 (初回年度と直近3年の実績)

開催月	タイトル		講師	
平成27年度(2015年度)				
9月	皮膚科の疾患について		皮膚科	竹内 聡
10月	眼科の疾患について		眼科	脇岡 邦明
11月	これから流行る感染症		感染症内科	内田 勇二郎
	インフルエンザとノロウイルス			
…	…		…	
令和5年度(2023年度)				
12月	よくわかる高齢者の目のはなし		眼科	瀧 瑠美子
1月	心筋梗塞について		循環器内科	塩見 哲也
令和6年度(2024年度)				
11月	本当に怖い転倒とその対策		整形外科	馬場 省次
2月	膝の痛みを改善し、歩く力を取り戻す!		整形外科	末田 麗真
2月	放っておけない脂肪肝		肝胆脾内科	樋口 野日斗
令和7年度(2025年度)				
10月	誰もが利用できる がん相談支援センター ～がんに関する悩み、 どこに相談すればいい?～		がんセンター	近藤 美保子

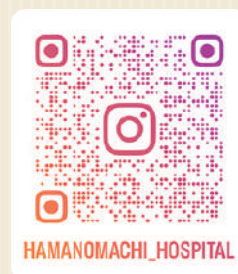
編集後記

このたび「はまかぜ」が100号発刊という大きな区切りを迎えるにあたり、記念号として特別企画としました。病院長の挨拶・副院長からのメッセージのほか、創刊からの「はまかぜ」のあゆみを掲載しました。そして、近い将来当院の活動をそれぞれの場でけん引する若手職員の紹介コーナーを設けました。

2000年の創刊号表紙には旧病院の全景が描かれており、外来担当医表には一宮仁顧問と谷口修一病院長のお名前がみられ、あらためて当院の歴史が感じられました。創刊以来、季刊誌として診療科やトピックスの紹介・連携クリニックの紹介などを広報してまいりました。これまでの25年間においては、新病院への移転・電子カルテ化・がん診療拠点病院の指定・新型コロナウイルス感染症対応など様々な出来事を経験しました。浜の町病院は、地域の皆様に支えられてきたことが再認識されます。支援い

ただいている皆様に心より感謝申し上げます。

写真は、広報委員会のコアメンバーである広報企画チーム員のご紹介です。広報委員会は医師・看護師・事務・技師さんなど多職種より構成されており、それぞれの視点から意見をいただきながら活動しています。近年は病院ホームページをリニューアルし、2025年7月からはインスタグラムを開始しました。紙媒体の配布物にとどまらず時代の移り変わりとともに広報活動内容も発展させてゆく方針です。引き続き連携施設や患者さんが入手したい情報の提供に努めてまいりますので、今後とも浜の町病院へのご支援をよろしくお願い申し上げます。



当院Instagram



読者アンケートのお願い

いつも当院をご利用いただき、ありがとうございます。広報誌「はまかぜ」が、今後も地域に寄り添い、みなさまに喜んでいただける情報を発信する冊子としてお手に取っていただけるよう改善していくために、アンケートのご協力をお願いいたします。

● アンケートの回答方法(所要時間約1分)

01



2次元コードリーダーを開きます。

02



上記コードにスマホをかざします。

03



アンケートに回答してください。

[受付時間] 午前 8:30～11:00

(令和7年10月1日現在)

診療科	時間	専門	月	火	水	木	金
がんセンター特殊外来 (完全予約制)	13時	がんゲノム外来	－	－	草場 仁志	－	草場 仁志
	15時	遺伝性腫瘍外来	金城 和寿	－	－	－	－
内科 肝胆膵内科：新患は紹介のみ 膠原病内科：新患は紹介のみ	午前	血液	衛藤 徹也	当番医	栃木 太郎	林 正康	栗山 拓郎
		循環器	小河 清寛	本田 修浩	児玉 泰樹	船越 祐子	増田 征剛
		消化管	清森 亮祐	山縣 元	田中 健太郎	山縣 元	清森 亮祐
		肝胆膵	応援医師	具嶋 敏文	具嶋 敏文	三木 正美	樋口 野日斗
		腎臓	光山 雄一郎	吉田 鉄彦	冷牟田 浩人	冷牟田 浩人	吉田 鉄彦
		糖尿病内分泌	二見 貴人	堀内 俊博	堀内 俊博	北村 知美	堀内 俊博
			－	－	－	－	北村 知美
		膠原病	河野 正太郎	吉澤 誠司	河野 正太郎	河野 正太郎	佐川 文彬
		腫瘍	二尾 健太	草場 仁志	花村 文康	二尾 健太	下川 穂積
呼吸器センター 新患は紹介のみ	午前	呼吸器内科	前山 隆茂	前山 隆茂	前山 隆茂	小川 知洋	前山 隆茂
			中西 喬之	小川 知洋	中西 喬之	中西 喬之	小川 知洋
		呼吸器外科	－	－	松本 耕太郎	松本 耕太郎	－
			－	－	大箇 慶吾	大箇 慶吾	－
脳神経センター	午前	脳神経内科	田中 栄蔵	佐竹 真理恵	佐竹 真理恵	佐竹 真理恵	佐竹 真理恵
			－	田中 栄蔵	－	田中 栄蔵	－
		脳神経外科	村田 秀樹	紹介新患のみ	村田 秀樹	紹介新患のみ	村田 秀樹
			宮松・檜垣		宮松・檜垣		宮松・檜垣
小児科 内分泌：第1・3水曜午後 循環器：第2・4木曜午後(予約)	午前	小児科	高田 直樹	坂倉 光	鷲尾 真美	武本 環美	高田 直樹
	午後	小児科	予防接種	予約外来	武本(小児神経)	1ヶ月健診	健診・予防接種
外科 ※木曜日の午後は Dr大城戸への乳腺紹介のみ	午前	消化器・一般	山元 啓文	植木 隆	河野 博	安井 隆晴	植木 隆
			安井 隆晴	山元 啓文	片山 直樹	進藤 幸治	進藤 幸治
			－	片山 直樹	一宮 仁	河野 博	－
		乳腺・甲状腺	大城戸 政行	金城 和寿	当番医	古賀 艶可	当番医
	午後		金城 和寿	－	－	－	－
整形外科 新患は紹介のみ ※月・水・金は受付時間 8:30～10:30	午前	整形外科	紹介新患のみ (当番医)	馬渡 太郎	紹介新患のみ (当番医)	馬場 省次	馬渡 太郎
				原田 知		河野 紘一郎	馬場 省次
				末田 麗真		末田 麗真	河野 紘一郎
				萩尾 聡		萩尾 聡	原田 知
				久岡・東		綾部 裕介	－
産婦人科 新患は紹介のみ ※火・木は受付時間 8:30～10:30 産科初診のみ婦人科で受付	午前	産科	中山 紗千	孫 麻子	本村 真由子	応援医師	孫 麻子
			松水 優美	－	清武 早紀	－	松水 優美
		婦人科	江頭 活子	上岡 陽亮	上岡 陽亮	江頭 活子	江頭 活子
			大神 達寛	竹内 麗子	大神 達寛	前原 都	大神 達寛
			竹内 麗子	清武 早紀	前原 都	孫 麻子	竹内 麗子
			前原 都	応援医師	厚井 知穂	－	厚井 知穂
眼科 ※木は受付時間 8:30～10:30	午前	眼科	瀧 瑠美子	－	瀧 瑠美子	紹介新患のみ	瀧 瑠美子
			福岡 正俊		福岡 正俊		福岡 正俊
耳鼻咽喉科 新患は紹介のみ ※月は受付時間 8:30～10:00	午前	耳鼻科	土橋 奈々	田浦 政彦	－	田浦 政彦	田浦 政彦
			次郎丸 梨那	土橋 奈々		土橋 奈々	渡邊 真理
			－	次郎丸 梨那		次郎丸 梨那	的場 信宏
			－	的場 信宏		渡邊 真理	－
泌尿器科	午前	泌尿器科	小林 武	新患のみ	柳井 建二	新患のみ	魚住 友治
皮膚科 新患は紹介のみ	午前	皮膚科	竹内 聡	石倉 侑	竹内 聡	竹内 聡	竹内 聡
			石倉 侑	－	石倉 侑	－	石倉 侑
形成外科	午前	形成外科	松本 大輔	－	松本 大輔	－	当番医
			舟橋 ひとみ		舟橋 ひとみ		
			久永 佳奈		久永 佳奈		
			栗山 ありさ		栗山 ありさ		
放射線科	午前	放射線診断科	角南 俊也	角南 俊也	角南 俊也	角南 俊也	角南 俊也
		放射線治療外来	瀬戸口 太郎	瀬戸口 太郎	瀬戸口 太郎	瀬戸口 太郎	瀬戸口 太郎
緩和ケア (完全予約制)	11時以降	緩和ケア外来	浅井 佳央里	浅井 佳央里	浅井 佳央里	浅井 佳央里	浅井 佳央里
			永山 淳	永山 淳	－	永山 淳	永山 淳